

ひとりひとりが創る新たな時代

ベンチャー SPIRITS 2011 IN FUKUOKA

開催報告



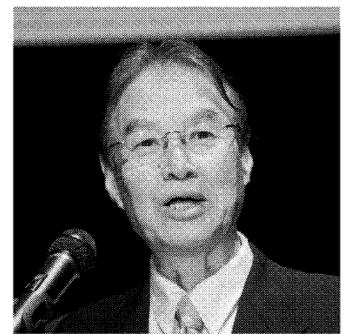
しみんりょく
「志民力が地域の個性を作る ~地域発・全国(世界)展開~」をテーマに、福岡で開催!!

基調講演 I

「国際潮流における日本発ベンチャーの指針」
 ~既成概念を捨て、九州の強みをどう創り出すか~
 「ベンチャーの基本は失敗しながら正しいものを探ること」

世界的なベンチャー起業家といえどこの前亡くなったアップルのスティーブ・ジョブズだが、成功一本槍ではなかった。挫折もし、試行錯誤を重ねて生き返ってきた。彼は「ハングリーであってほしい。そしてフォーリッシュであってほしい」という言葉を残した。妙に自信過剰になるなどということだ。このことをまず冒頭に申し上げたい。スティーブ・ジョブズの成功はプラスアルファの創造性だ。人のまねをしても創造性が常に伴った。偽造、模倣では中国をすぐに思い描くが、昔の日本は「猿まね国家」といわれ、あのパナソニックにしてトヨタにしてまねをし、創造性をプラスしていった。重要なことはいかに市場を確保するかだ。日本人は江戸時代の鎖国の尾を引いているのか外国で働くことに抵抗感がある。明治時代に「海外雄飛」が叫ばれた。戦争直後もそうだったが、今一度その言葉を使う時期だ。国内経済は限界がある。ここにベンチャーの要素がある。

ベンチャーは米国で生まれた発想だから、米国に出て活躍する余地は狭い。中国、インド、東南アジアにはチャンスがある。私の教え子で卒業後タイのバンコクに行き、人材派遣業を起した女性がいる。日本人でタイ語を勉強して現地にいく人が少ないところに目をつけ、日本語のわかるタイ人と組んで大成功している。そういう例は多い。海外に出るのは大変だが日本政府や金融機関の支援の動きが強まっているし、支援を受けなくても成功している人もいます。日本人は外国で仕事となると「言葉が大変」と心配するが、中国でもどこでも日本語のうまい人はいっぱいいる。助けを借りればいい。まず勉強してからではだめだ。スティーブ・ジョブズは失敗しながら正しいものを探って成功していった。それがベンチャーの基本だ。国外に行けばリスクもあるが成功の鍵があるかもしれない。それが私の結論だ。



国際政治ジャーナリスト
浅井 信雄 氏
 1935年、新潟県生まれ。東京外国語大学卒業後、58年に読売新聞社に入社。フロンティア支局長など歴任後、81年退社。83年から東京、東京外国語大学講師、三菱総研客員研究員などを経て、87年から11年間、神戸外国語大・国際関係学科・大学院教授を務める。専門は国際政治学。

独立行政法人中小企業基盤整備機構は創業やベンチャーの啓発・促進イベント「ベンチャー-SPIRITS in 福岡」を10月21日、福岡市のJR九州ホールで開催した。仙台、札幌に次ぐ今年度3回目の開催で今回のテーマは「志民力(しみんりょく)が地域の個性を作る~地域発・全国(世界)展開」。150人を超える参加者が講演とパネルディスカッションに熱心に聞き入っていた。

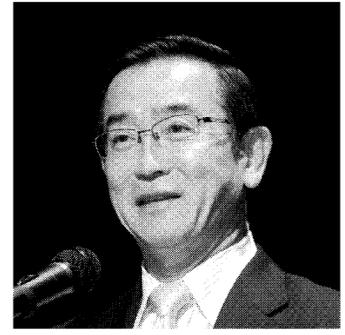
会期: 2011年 10月 21日(金)
 会場: JR九州ホール
 福岡市博多区博多駅中央街 JRシティ 9F
 主催: 独立行政法人 中小企業基盤整備機構
 後援: 経済産業省九州経済産業局、福岡県、福岡市、北九州市、福岡商工会議所、福岡県商工会連合会、福岡県中小企業団体中央会、社団法人九州ニュービジネス協議会、財団法人福岡県産業・科学技術振興財団、財団法人福岡県中小企業振興センター、株式会社商工組合中央金庫、株式会社日本政策金融公庫(順不同)

基調講演 II

「CoCo壱番屋の創業物語と今」
 ~こだわりが二流を一流に変える! 国内外1200店舗強のグローバルチェーン~
 「小さな目標達成の繰り返しで夢を実現する」

人がやらないことを継続してやり続けること。家族、社員、関わる人、期待してくれる人たちのために自分を捧げることが宗次流経営だ。始めから「ヒト、モノ、カネ」はいらぬ。「誠意」「真心」「感謝」の積み重ねだ。18歳で不動産会社に就職、3年後に住宅会社に移り、結婚し25歳で夫婦で喫茶店を始めた。名古屋といえばモーニングだが「モノのサービスは嫌。笑顔であふれた店にしたい」とやらなかった。案の定店は閑散とし、昼食はいつもパンの耳。そんなときに書いた標語が「お客様笑顔で迎え、心で拍手。そういう気持ちでやり続けていたら応援してくれる人がいっぱい出て、家で食べていたカレーを出前しようとなった。それが原点だ。1号店は29歳の時。月商は70万円だった。私は今も遅くとも3時55分には起きる。早起きがすべての源だ。誰よりも早く会社に入り掃除をし、事務所前のプランターに花を育てる。そして社員を待ち受け社長塾を

開き、仕事がスタートする。社員の2割は「私も頑張ります」と手を差し伸べてくれる。現社長もそういう一人で、まだ2、3号店のころに採用したアルバイトだ。経営者は率先垂範し、現場主義を貫き、お客様第一主義を貫く。吸い殻が落ちていたら経営者が拾う。向こう3軒までの掃除も先頭に立ってやる。とるに足らぬことだがやり続けると地域に認められる。価格競争は問題じゃない。33年たつて海外を含め1280店舗になった。「夢を持つな! 目標を持って!」と言っているが、目標があれば常に努力する。小さな目標達成の繰り返しで奇跡のような夢が実現する。「商売、経営は最初からうまく行かない方がいい」「利益が少ない商売にこそ感謝の気持ちを込めよう」「経営者の仕事は内容よりも時間の長さにある」「クレームは宝の山、発生したらめんどくさいと思え、独断と偏見の経営記録の一部だ。今は完全に壱番屋の経営から離れたが、経営とは継続して栄えるのが「継業」だと常に言っている。



壱番屋 創業者特別顧問
 NPOイェロー・エンジェル 理事長
宗次 徳二 氏
 1948年石川県生まれ。高校卒業後、八洲開発(株)を経て、大和ハウス工業(株)入社。73年に独立し不動産業を開業。74年喫茶店を開業を経て、78年「カレーハウスCoCo壱番屋」を創業。82年(株)壱番屋を設立し社長、98年会長。2002年より現職。03年NPOイェロー・エンジェル設立。07年より音楽ホールを運営。

主催者挨拶
九州発の全国・国際展開に期待
 IT社会の中でビジネス活動は中小といえども県境を超え、全国からアジアなど幅広い展開が可能な環境にある。インフラが整備されている九州を拠点に全国展開、国際展開するベンチャーや中小企業が続々と生み出されることを期待したい。
 (独)中小企業基盤整備機構 新事業支援部長 **船矢 祐二**

来賓挨拶
SPIRITSが地域に根ざす土壌づくり
 少しでも創業、起業家を増やそうと経産省も色々支援を行っているが、最も重要なことは「ベンチャー-SPIRITS」がいかに地域に根ざすかだ。我々はそういう土壌を作り、地域がベンチャー-SPIRITSで満たされるよう努力したい。
 経済産業省九州経済産業局 地域経済部 地域経済課長 **松田 一也 氏**

ワークショップ

「“個性的”ものづくり企業の経営戦略」 ~地域の力が世界を席捲~

地域に軸足を置きつつ、日本や世界市場で戦う企業の経営者(創業・第二創業)をスピーカーに迎え、独自の経営哲学で周りを巻き込み、地域の強みを活かしながら、いかに顧客や消費者が求める形の商品やサービスへと昇華できるか。地域に根ざした企業だからこそできる地域貢献などを熱く語った。



「色々な人に会い、一人でも理解者を増やす」
 パネリスト (株)クラーク 代表取締役 **高松 輝賢 氏**
 工場の自動化技術に携わっていたが、この技術を多方面に応用しようと28歳で独立した。病理医の先生の仕事を何とか自動化できないかと開発したのがパネリャスライドだ。現在は大手が数多く参入し、ベンチャーは世界で3社しかない。海外展開は体力がないのでOEM、SKDでやっている。ジェトロを活用し、インドネシアはそれで開拓した。社長として大事なことはとにかく色々な人に会うこと。その中で一人でも理解し合える人がいれば大もうけだ。

「当たり前のことを当たり前でやること」
 パネリスト (株)ジェイデバイス 代表取締役社長 **仲谷 善文 氏**
 住友商事に5年ほどいたが父と叔父の跡を継ぎ、仲谷電子製作所(現ジェイデバイス)に入社した。東芝の協力会社だったのが09年に東芝の半導体のロジック部門の後工程を譲って頂いた。台湾を視察した折、規模拡大が必要と気づき、その後5回のM&Aで30倍の規模、500億円の会社になった。リーマンショック以外は黒字だったので資金調達は信用があった。今シンガポールで支店づくりを進めている。当たり前のことを当たり前でやれば海外も国内と一緒に思っている。



1964年大阪生まれ。93年仲谷電子製作所(現ジェイデバイス)入社。95年社長。積極的な設備投資を背景に、世界的競争力と規模、技術の3拍子を有する独立系資本の専業企業。



「“オール大川株式会社”で実現したい」
 パネリスト (株)関家具 代表取締役社長 **関 文彦 氏**
 大川という家具の町で育ち、小学校の頃には木材の買い付けに行っていた。高校卒業後、久留米で3年間商売を修行、夜間大学で学んだ。木工所生まれだが「作るのやめて売ろう」と大川に帰り、25歳で倉庫と1トントラックを買った。創業当時は人の採用で苦労したが今は社員が200名。1期も赤字はない。私は16時間労働を50年続けているが社長はとにかく働くこと。これが経営の一番の要件。これからは、よその産地ではできないものを地域の力を合わせた“オール大川株式会社”で実現したい。

「九州の利点を生かしたベンチャーに期待」
 モデレーター プライスウォーターハウスクーパース(株) ディレクター **原 誠 氏**
 今日では地域に軸足を置きつつ、日本・世界の市場で戦う経営者3名に創業の契機、決断した局面、これからの夢などを語って頂いた。仲谷さんの5回のM&A成功の話は、海外では例があるが日本企業では突出してすごいと思う。偶然ではなく共感を持ってもらうために様々なエネルギーが発揮されたのだろう。九州には鹿児島のように産業連関や連携の強い地域も、大分のように大企業の研究拠点が集中した地域もあり、強みである。特に今は大企業の内部に埋もれた技術、地の利も活かした新たなベンチャーが次々にすることを期待したい。



戦略、営業体制整備等のコンサルティングサービスを提供するPwCのディレクター。様々な業界の将来構想(グランドデザイン)とその構想に基づいた改革等、多くの実績を持つ。

VENTURE SPIRITS 2011 in FUKUOKA

VENTURE SPIRITS 2011 in FUKUOKA